

神奈川県山梨教会連合会たより

# かりん

## インタビューシリーズ

第三回（後半）

平塚教会信徒 宇佐美陽子さん

○現在上のお子さんが高校一年、下のお子さんが中学二年ですよ。色々難しい年代ではないですか？去年は受験でしたよね。  
陽：受験らしい受験はしてない感覚です。うちの子は、二人ともほとんど学校に行っておらず、下の子は小二から、上の子は小五から行けなくなりました。

高校は通信制か定時制の二択だったのですが、自分のペースで学べる、週一通学の通信制サポート高校に入りました。

○学校に行けないのは大変ですね。

陽：今の子ども達は物事の見え方が違うというか。長女は、小三の頃から「どうして時間割なんて決まっているの、自分でなぜ決められないの？」と言いついて、それから学校が嫌になっていったので。学校の決まりに納得がいかないことが多いタイプのようにです。

○【自分】をしっかりと持ってらっしゃるのですね。

陽：どうでしょう。私自身学校が大好きだったので、行きたくない気持ちはなかなか理解できず、親子でも、全然違う人間だなと思いました。

○高校ではどうですか。

陽：長女の通う高校では、課題が一年分ドーンと来て、動画授業見ながら取り組むのですが、友達で早い子は、7月時点で一年分終わったという子もいるし、長女も2、3か月先の分までは終わっているそうです。自分のペースで勉強を進めることが出来るのが通信制のいいところですね。

○長女さんには合っているのですか。通信サポート校は、利用する学生の評判はよい感じですが、学費等かなり大変と聞きました。

陽：塾や予備校と同じような形態なので、国からの補助等がなく、全て自腹になります。

○子どもが喜んで通うのはいいけど、親は大変ですね。

陽：長女は昼夜逆転する日が多いときがあり、通学できない日もありました。

その際、どうして行かなかったの？と聞くと、逆に「どうしてそんな事聞かれなさいいけないの」と。「私は否定された」と感じやすいようで、そうならない様にしっかりと対話するようにしています。

以前月四回の通学日に、一回しか行けない月があって、その時、授業料を払って

る側からすると「月に一度しかいない」と思いがちなのですが、そこは「一回は頑張っただけ」と考えるようにして、それを踏まえてこれからの進め方等を話し合うようにしています。

○仕事との両立は大変でしょうね。

陽：ちょうどコロナ等のタイミングもあり、自宅でリモートでの仕事が多かったので、何とか出来ています。とはいえシングルマザー、仕事も家事も、子どもの相手も、全て双肩にかかってきて大変です（笑）今は二人とも大きくなって、家事をしてくれたり気遣ってくれたり、少しずつ楽になってきました。

○教会に参拝する事などありますか。

陽：両親は「いつもお祈りしているからね」というけど、ああしろこうしろとは全然言わなくて、私にはそれがとても助かっています。そして時折「今度大祭だからよかつたらおいで」と声かけてくれたり、家にお下がりを持ってきてくれたりします。

「自分達の事を祈ってくれている人が、気にかけてくれて声をかけ続けているのがあるがたいし、お礼を言える場所があるのもありがたいね」と子ども達と話して、今は参拝に行ったり御用のお手伝いをさせてもらったりしています。

○ありがとうございます。

（今村則子）



## 講話と夕食の会

## 防災出前講座 「地震から身を守る」

今年も12月第1土曜日の7日、講話と夕食の会が開かれた。横浜港が一望にできる、神奈川近代文学館の会議室をお借りし、ひかりプロジェクトから講師お二人をお迎えして、「地震から身を守る」と題しての勉強会であった。定刻11時50分、山口信徒部長のご祈念に続いて、ご挨拶、講師の紹介があった。「入田 央さんは3年前にもオンラインで、集中豪雨のお話をして頂いた方、画面を通じて記憶に残しておられると思う。今日は橋本敏廣さんとお二人、近い将来予想される大地震からどう身を守るか、しっかり学んで、備えて頂きたい」。

入田さんから、「私たちが出前講座と称して、防災のお話を始めて3年目、今回は10回目の講座になる。少しでもお役に立てるよう、わかりやすくお話しさせて頂きたい」という前置きで、まずは地震がなぜ起きるか、その仕組みから。筆者には半分くらいしか理解出来ていないと思うので、この部分については、割愛させて頂きます。印象に残ったことを書かせて頂くと、30年以内に大規模地震が起きる確率は70%、とよく耳にし目にするが、2024年はすでにその最初の年に当たっているということ。日本列島は地震の巣のような場所にあり、南海

トラフ、中部圏・近畿圏直下型、日本海溝・千島海溝周辺地震、首都圏直下型、と様々な地震が予想されていること。世界の地震の1割は日本で起きていること。特に直下型地震については、予知は全く期待できないことなどなど。今までも決して油断していたわけではないが、地震に対する心構えと防災実践の必要性を強く感じた。おぼろげながら、マグニチュードと震度の違いも理解させて頂いた。

さて、後半は、「減災」について。一言で防災と言うけれど、大地震に襲われて、災害を完全に防ぐのはまず無理なこと。ただ出来るだけ災害を小さくしたい、つまり減災を心掛けたい、ということであった。考えられることは4つだと言う。

①備蓄品を準備すること。②家具を固定すること。③避難先への経路を確認すること。④ハザードマップを今一度見直すこと。備蓄品については自治体やテレビ・新聞などで、情報を得ていると思うので、個々の品物名などについては触れられなかったが、考え方として、備えに特効薬はないということ。小さなことをコツコツと、我が家に必要なもの、自分自身に必要なものを準備していくこと、さらに時々点検して見直すことが大切。

備蓄は最低3日間、出来れば7日間を目安とすること。例えば水なら1人1日3リットル必要、という。さらに食料品につい

ては、ローリングストック方式を採用すること。簡単なことで、お米を買う時、すっかりなくなつて買うのではなく、7日間分くらい残して買う、そうすれば、7日分をストックしていることになる。これを缶詰などにも応用して考えればよい、高価な、3年5年も保管できるご飯やパンを購入する必要はないという。使った分は補充することを忘れないように。

避難経路について、一度実際に歩いてみるのが大事で、例えば高いブロック塀があるような経路は避けたほうがよい、夜にも歩いてみると、暗い中で危険な道や場所を知ることが出来る。つまり地図上や頭の中で確認するだけでなく、実際に体を使って体験しておくことが、いざと言う時に役立つということであった。ハザードマップについても、時々見直すことが大切で、今までなかった情報が付け加えられていることもある。

さらに大切なことは、自助共助の考え方を持つこと。まず自分のことは自分で何とかする。その次に地域の方々の助け、お役に立つことをさせて頂く。実際、阪神淡路大震災で、倒壊した家の、下敷きになった方を助けたのは、地域の住民が72%、自衛隊が14%、消防機関が14%という。公的機関が助けに来て下さるのを待っている、間に合わないということなのである。そのためには、地域のコミュニケーション能力

を高める必要がある。「あの家の高齢者は、いつもあの部屋で寝ているから、この辺りで下敷きになっていくかもしれない」ということを知っている人は、助けることが可能なのだ。自衛隊や公的機関の助け(公助)が来るには時間がかかる、自助、共助、公助の連携が大切だが、その間に近助(近所)という考え方を入れておきたい、と話された。都会でよく言われる「隣に住む人の顔も知らない」という関係は、減災という願いからは程遠い。

建物の安全性を考える時、新耐震基準で建てられたものは、比較的強度が高いというが、建物が倒壊すると、命や火災の危険があるばかりでなく、避難生活が長期化してしまう。それは耐えがたいことなので、1981年以前に建てられた建物は、公的補助を受けて、耐震診断を受けたり、補強することを考えてほしい。家具を固定するほか、寝室、廊下に物を置かない、寝室には懐中電灯やスリッパ(運動靴)を置く、などが必要。

さらに、停電対策が必要だということ。地震が起きると、自動的に停電して、その時は火災にならなかつた。が、復旧して通電した時、電気ストーブ、ドライヤーなど発火しやすいものに洗濯物などが落ちて、火災になるということが多いらしい。備えるためのブレーカー遮断の方策の説明があった。簡易的なもの、工事が必要なもの、

があるという。

簡易トイレの作り方について、実際に植木鉢を使つての説明があつた。植木鉢(またはバケツ)にごみ袋をセットし、さらにレジ袋を重ねる、段ボールで便座を作つて置く、匂い消しのために、脱臭力のある猫の砂をかけるという。講師の先生が作ったものに、実際に座つて見せて下さり、かなり使い勝手のよさそうな簡易トイレが、簡単に作れることに感心し、これはお役立ち情報だと思つた。

休憩の後、グループワークという、意見交換を行つた。地震が発生した時、あなたならどうする?というテーマで話し合い、結果を発表し、アドバイスを受けた。さらに災害用伝言サービスの便利さと使い方について、説明して頂いた。参加者全員で記念写真を撮つて、15時45分終了した。

かなり駆け足の研修だったが、非常に有益だつたと思う。まず、地震(災害)に対しての心構えを持つことが大事だと悟つた。人生何事もそうなのだろうが、減災にもまず覚悟が必要で、さらにたゆまぬ努力が必要と知つた。立派な資料本を頂いて、これを参考に一層充実した対策を考え実践してゆきたい。講師の先生、資料を作られた方に感謝致します。参加者は9教会から14名

(報告・大塚東子)



講師の入田さん(前列左から2人目)、橋本さん(前列左から3人目)と参加者の皆さん

### 第2回グラウンドゴルフ大会

令和6年9月16日に、新横浜駅から地下鉄でひと駅の片倉北公園にて、神奈川山梨教会連合会信徒部主催の第2回グラウンドゴルフ大会を実施しました。

参加者は83歳から10歳までの老若男女29名が集いました。

ゴルフコースは1番、3番が距離30m、2番と4番が距離50m、5番と7番が距離

25m、6番と8番は距離15mで全てパー3のグラウンドゴルフ標準コースで実施しました。

一般的に競技は4ラウンド回りますが、前回実施の経験から、前回と同じ3ラウンドで行いました。

以下、結果発表です！

優勝 横浜西教会 箕田 朋歩

スコア 73 前年に次いで連覇

準優勝 藤沢教会 高橋 義吉

スコア 75 前年に次いで入賞

三位 藤沢教会 高橋 好子

スコア 75 新入賞

おめでとーございませう！

4位の神奈川教会の福田先生は2位、3位と同スコアでしたが、敬老精神に従いまして4位となりました。横山先生は6番でホールインワンを達成して、ホールインワン賞のワンカップが贈呈されました。ブービー賞はジュニアの高橋基治君が獲得しました。

優勝した箕田朋歩さんは競技前に、前回優勝の秘訣として「無欲の心」を話されていきました。前回の優勝時はビギナーズラックとのことでしたが、早くも達人の境地に至ったのではと思われませう。

昨年のグラウンドは8ホール全長120mで平均スコア98でしたが、今回は8ホール全長240mで平均スコア91となりました。コースが倍に長くなってもスコアは向上しており技術のアップが感じられませう。  
天気は薄曇りで小雨もありましたが、誰も熱中症にならずに楽しめませう。懇親会は最寄りのデニーズで行い、おいしい昼食をいただきませうして、皆、笑顔で帰りました。

(報告 高橋義吉)

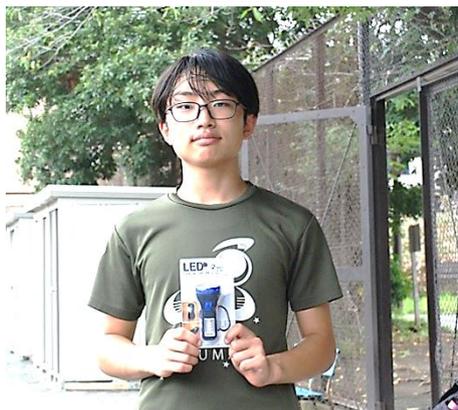


↑世代を超えてお集りの、参加者の皆さん



←優勝の箕田さん(中央)、準優勝の高橋さん(右)、三位の高橋さん(左)

↓ホールインワン賞の横山先生(右下)、ブービー賞の高橋君(左下)



本年も各行事に多数ご参加くださりありがとうございます。次年度も元気なお顔を見せ合ひませう。  
編集担当

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 山田 信二

〒245-0017 横浜市区下飯田町926・23 金光教横浜西教会内